

44. かぶ

・殺菌剤（参考農薬）

FRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
11	アミスター20フロアブル	散布	収穫7日前まで	2回以内	
36	ネビジン粉剤	作条土壌混和	は種又は定植前	1回	
		全面土壌混和			

・殺虫剤（参考農薬）

IRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
11	トアロー水和剤CT	散布	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	野菜類(ハゼリ、えごま(葉)を除く)
11	バシレックス水和剤	散布	発生初期(但し、収穫前日まで)	-	野菜類
3	フォース粒剤	播溝土壌混和	は種時	1回	
1	マラソン乳剤	散布	収穫14日前まで	4回以内	
4	モスピラン顆粒水溶剤	散布	収穫21日前まで	1回	

- 注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。
- 注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける（「薬剤抵抗性管理」参照）。
- 注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。
- 注4) 蚕毒・魚毒については、「56. 野菜類の総括注意」も参照する。

病害虫名（F：菌類病、B：細菌病、V：ウイルス病、O：その他の病原体）

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
根こぶ病 (F)	は 種 前	1. 土壌酸度を pH7 以上になるように、石灰を施用する。 [参考農薬] 1. ネビジン粉剤を 10a 当り 30kg を全面散布するか 10a 当り 20kg を作条散布し、均一に土壌混和する。	1. 排水の悪いほ場で発生しやすい。 2. 粉剤は土壌水分の低い時に施用すると、混和しやすい。
白さび病 (F)	生 育 期 間	1. マルチとトンネル被覆栽培すると発病軽減効果がある。 [参考農薬] 1. アミスター20フロアブル 2,000 倍液を散布する。	1. 降雨が多いと発生も多くなる。 2. 窒素過多は発病を助長する。 3. 病原菌は、はくさいやこまつな、チンゲンサイを侵すが、だいこんには寄生しない。 4. QoI 剤に関する注意事項「56. 野菜類の総括注意」参照。
コナガ	生 育 期 間	[参考農薬] 1. トアロー水和剤CT、又はバシレックス水和剤の 1,000 倍液を散布する。	1. BT 生菌剤(バシレックス)は蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。
アブラムシ類	生 育 期 間	[参考農薬] 1. マラソン乳剤 2,000~3,000 倍液、又はモスピラン顆粒水溶剤 2,000 倍液を散布する。	1. モスピランは蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。
キスジノミ ハムシ	は 種 時	[参考農薬] 1. フォース粒剤を 10a 当り 4kg、播溝土壌混和する。	1. モスピランは蚕毒に、フォースは蚕毒及び魚毒に特に注意する（特別指導事項参照）。
	生 育 期 間	[参考農薬] 1. モスピラン顆粒水溶剤 2,000 倍液を散布する。	

45. にんじん

・殺菌剤

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
M1	(銅水和剤) Zボルドー	散布	-	-	
19	ポリオキシシAL水和剤	散布	収穫7日前まで	5回以内	

・殺菌剤 (参考農薬)

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
M1	キノンドーフロアブル	散布	収穫3日前まで	5回以内	
M1	(銅水和剤) コサイド3000	散布	-	-	
NC+M1	ジーファイン水和剤	散布	収穫前日まで	-	野菜類(なすを除く)
31	スターナ水和剤	散布	収穫7日前まで	3回以内	
11	ストロビーフロアブル	散布	収穫7日前まで	3回以内	
M5	ダコニール1000	散布	収穫7日前まで	5回以内	
M7	バルクート水和剤	散布	収穫14日前まで	5回以内	
2	ロブラール水和剤	散布	収穫14日前まで	4回以内	

・殺虫剤

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
1	マラソン乳剤	散布	収穫14日前まで	4回以内	

・殺虫剤 (参考農薬)

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
3	アグロスリン乳剤	散布	収穫7日前まで	2回以内	
3	ペイオフME液剤	散布	収穫14日前まで	1回	
1	ランネート45DF	散布	収穫前日まで	2回以内	

注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。

注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける（「薬剤抵抗性管理」参照）。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

注4) 蚕毒・魚毒については、「56. 野菜類の総括注意」も参照する。

病害虫名 (F : 菌類病、B : 細菌病、V : ウイルス病、O : その他の病原体)

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
根頭 がんしゅ病 (B)	生 育 期 間	1. 発生地では連作しない。 2. 被害根は集めて焼却するか、ほ場外に埋設する。	1. 著しい被害株でないとは地上部に異常は現れない。
黒葉枯病 (F)	6月～9月	1. ポリオキシシンAL水和剤、又はZボルドー500倍液を発病初期から10日おきに散布する。 [参考農薬] 1. ベルクート水和剤500～1,000倍液、キノンドフロアブル600～800倍液、コサイド3000、ダコニール1000の1,000倍液、ロブラール水和剤1,000～1,500倍液、ストロビーフロアブル2,000～3,000倍液のいずれかを散布する。	1. 短根種は弱い。 2. 銅水和剤は高温条件下、連続散布で薬害が発生する恐れがある。炭酸カルシウム水和剤(クレフノン)100～200倍液を加用すると、薬害を軽減できる。 3. QoI剤に関する注意事項「56. 野菜類の総括注意」参照。
軟腐病 (B)	6月～9月	[参考農薬] 1. ジーファイン水和剤、又はスターナ水和剤の1,000倍液を散布する。	1. ジーファインは高温下、連続散布で薬害が発生する恐れがあるので注意する。
ネコブ センチュウ ネグサレ センチュウ	は 種 前	1. 土壌線虫の項を参照する。	
ヨトウムシ (ヨトウガ)	8月上旬～ 9月下旬	[参考農薬] 1. ランネート45DFの1,000倍液、アグロスリン乳剤、ペイオフME液剤の2,000倍液のいずれかを散布する。	1. ランネートDFは吸入毒性が強いので、散布する時は必ずマスクを着用する他、風向きなどに注意し、噴霧を吸入しない。 2. アグロスリン、ペイオフMEは蚕毒及び魚毒に特に注意する(特別指導事項参照)。
アブラムシ類 (ウイルス媒介)	生育中期まで	1. マラソン乳剤2,000倍液を散布する。	